拝啓　今年も早や4月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今はハナミズキが終わりかかっています。なんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）の白い花が満開になりました。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第14回です。「イエス・キリストが所有し給う忠実」の項には、次のような説明があります。

「小西芳之助先生は、概略以下のように説かれた。……〔ロマ書3章〕22節を日本語訳聖書では、「イエス・キリストの信実」の「の」を目的格に訳しているが、私はこれを主格として訳し、「イエス・キリストが所有し給う」と解釈する。また、〔ギリシア語で〕「ピストス」の原語は「信仰」という意味もあり、「忠実」という意味もある。日本語訳聖書は「信仰」と訳しているが、私は「忠実」と訳し、この章句を「イエス・キリストが所有し給う忠実」即ち「イエスキリストの贖いによる神の義」としたいと言われた。何故なら、イエスが一生を神に忠実に過ごされ、最後は父なる神の御心に従って十字架を負い、復活されたご生涯は、全て父なる神に対する忠実であり、それは「人間の罪の贖い」のためであったからである。この講解を聞いて、私〔佐生〕ははじめて信仰が理解できたように思った。」これは小西先生の最も重要な聖書解釈の一つと言えると思います。

「常に義とせられつつ」の項には、内村鑑三先生の次の言葉が引用されています。

「ゆえに「常に語とせられつつ」行く必要が起こるのである。人の信仰においてなし得ることは、絶対的に罪を犯さないことではない。十字架のキリストを仰ぐことである。そしてこの信仰のゆえに、人は「常に義とせられつつ行く」のである。ゆえに「常に義とせられつつ」すなわち「デイカイウーメノイ」の一語は、常に悩めるキリスト者にとりては大いなる慰めの語である。（内村鑑三　ロマ書の研究3・21－26）」

「デイカイウーメノイ」というギリシア語は、懐かしく思い出されます。

3月28日、本誌読者の志津の佐藤れんさんが亡くなられました。92歳、老衰による昇天でした。佐藤れんさんには、私は43歳のころうつ病にかかったとき、山口良二先生が佐藤さんの畑を借りて野菜作りをしていたので、誘ってくださり、それ以来大変お世話になりました。「エンカウンター」の始まりも、佐藤れんさんから献金を頂きパソコンを買って、エルマー先生の小冊子を写して送ったことが始まりでした。大勢の人の悩み事を聞いてあげ、まるで観音様のような人だと思ったことがありました。今は、天国で先に亡くなられたご主人、小西芳之助先生、山口良二さん、石館基さん、佐生健光さんなど大勢の信仰の友人に、よく頑張りましたね、と迎えられていることでしょう。

先月号から、私が読んでいる霊想の書のうち、特に感銘を受けた箇所をご紹介します。小西先生の『主の御名を呼ぶ』（私家版）から

4月13日「再び、私は言う、「キリスト教を学ぶには、日本人が英語を学ぶがごとし」と。キリスト教を学ぶには、教師の真似をしなければならない。丁度、英会話をまなぶにも、教師の真似をしなくてはならないのと同じである。

思いにも、行いにも、できるだけ聖パウロの真似をしようではないか。真似をしてこそ、

はじめて我らの復活の真実であることを知るであろう。」
新渡戸先生の『一日一言』（新渡戸基金）から
4 月 24 日「天の使いは、人目の見えぬ所に潜みて助け、人耳に聞こえぬ声にて導くものか。始終我が傍にいるらしい。彼らの守護がなかったなら、今までに幾度転び、幾度倒れ、火災、水難数知れぬ禍いはこの身を滅ぼしたであろう。我に対して好意を有し、我を守り、我が安全を祈る者は、我こそその在所も生命も知らざれ、必ず、広き世界にあるなり。」
内村先生の『続一日一章』（教文館）から
3 月 25 日「恩恵は日に日に新たなり。特に朝に朝に新たなり。最も良き思想は朝来たり、最もうるわしき歌は朝わき出ず。小鳥は朝歌い、イエスは朝、復活したまえり。まことに地球は夜ごとに死し、朝毎によみがえる。神は常時、われらと共にいましたもうといえども、特に朝、我等に教えたもう。ゆえに特に保存すべきは朝の思想である。逸すべからざるは朝のささやきである。」
バークレー先生の『一日一章』（ヨルダン社）から、
4 月 31 日（イースター）「われわれが人生に対処しうるのは、イースター信仰、復活して今なお生きたもう主に対する信仰によってである。
生きて死に、そしてまたとこしえに生きたもうお方、死を征服なさったお方を、友人として又仲間として持っている、というのがイースターの信仰である。この世の生活においてわれわれと共にいますお方は、死においても、死のかなたの生活においても、我々と共にいて下さるのである。
イースター信仰は、一年のある時期にだけ考えることではなく、クリスチャンがそれによって毎日生き、それによって最後に死ぬ（それも再び生きるためだが）そのような信仰でなければならない。」
カウマン先生の『山頂を目指して』（いのちのことば社）から
4 月 10 日「もしあなたがきょう、一つの手を
必要とされるなら、
人生の苦しさの中で
だれかの手を握りしめるために
今日、一つの手を必要とされるなら、
私の手を取って下さい、愛する主よ、私の手を取ってください。」
一都三県と大阪などに緊急事態制限が出され、又行動を制限する必要があります。どうぞ、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お体には十分ご注意下さるよう、お祈り申し上げます。
4 月 25 日　　山口周三
エンカウンターの読者各位